高知県名誉県民顕彰

奥　谷　博　氏
事　績　概　要

高　　知　　県

平成30年３月21日

事　　績

奥谷博氏は、日本における具象絵画の旗手として、また指導者として、美術界の第一線で活躍され、平成２９年１１月、日本の文化の発達に関し特に顕著な功績のある方に贈られる文化勲章を受章された。

長年にわたって確立されたその幻想的な作品は日本のみならず世界の人々を魅了し、日本の洋画界にとどまらず、美術界全体の発展にも多大な貢献をされた。

その輝かしい活躍は、ふるさと高知の人々に夢と希望、勇気、感動を与えた。

〔我が国の美術界の発展への貢献による文化勲章の受章〕

日本洋画の巨匠として、美術界の第一線で活躍され、平成１９年１１月、文化功労者として顕彰され、平成２９年１１月、本県出身者では、昭和３２年の植物学者・牧野富太郎氏以来で二人目となる文化勲章を受章された。

氏は洋画家として、昭和４２年の第１回文部省（当時）芸術家在外研修員として１年間の渡仏による実践的な研修経験や、独立美術協会主催の独立展などへの作品の出品を重ねることで、自らの作風を確立させた。

その作風は、風景に群像が組み合わされ、色彩のコントラストと緊密な構成が際立ち、生と死の交錯する幻想的なものと評価されており、平成１９年にパリのユネスコ本部をはじめ、長年にわたって世界各地の世界遺産を取材してきた作品をまとめた展示などが高く評価された。

また、日本美術家連盟理事、日本芸術院第一部長代行など関係団体の要職のほか、東京藝術大学美術学部において客員教授などを務め、後進の指導・育成に尽力するなど、具象絵画の牽引者としての役割を担い、日本の美術界の発展に寄与された。

〔本県の芸術、文化の振興への貢献〕

氏はふるさと高知における芸術、文化の振興に意を用い、高知県（昭和５９年寄贈・画家と鴉、平成５年寄贈・エスキースⅠ－犇く黒い生－・エスキースⅡ－犇く黒い生－）や出身の宿毛市への作品の寄贈、平成１９年の県立美術館をはじめ県内各地での展覧会などを通して、県民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供するなど、本県の文化芸術の振興に寄与した功績も大きい。

高知県名誉県民証

奥 谷　博　様

あなたの長年にわたって確立された幻想的な作品は日本のみならず世界の人々を魅了しその活躍によりふるさと高知の県民に夢・希望・勇気・感動を与えた功績に感謝し平成２９年度文化勲章の受章にあたり高知県名誉県民として永くたたえます

平成 30 年 3 月 21 日

高知県知事　**尾﨑　正直**

奥谷博氏からのメッセージ

皆様こんにちは、昨年１１月３日文化の日の親授式で文化勲章を受章して、いろいろな事が重なり、いささか疲れぎみです。又、このたび高知県名誉県民証を受賞することになりました。大変光栄な事と思います。

聞くところによりますと高知県名誉県民は歌手のペギー葉山氏、作家の司馬遼太郎氏で高知県生れとしましては漫画家のやなせたかし氏と私ということです。

私は、高知県宿毛市で７人兄弟の末っ子として親、兄弟の愛に恵まれ野山を駆け巡り、夏は松田川で過すという美しい自然にめぐまれ育ちました。高知県は、経済的には低いと言われていますが幸福だと感じる方は多いと聞きます。私が生き、作品が生れる上での何を感じ、苦しみ、悩み、希望を生むかという原点であります。

「藝術無終（げいじゅつむじゅう）」は、私が５０才代の頃考えた自分を励まし戒めとする言葉、座右の銘です。芸術に終わりなし ART IS NEVER FINISHED という心で、私にしか出来ない芸術、奥谷博にしか出来ない作品を制作し精進して行きたいと考えています。

今後とも何卒よろしくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

ありがとうございました。

平成 30 年 3 月 21 日

奥谷　博